

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 400 号	氏名	濱田 光洋
学位審査委員	主 査 中島 憲一郎 副 査 塚元 和弘 副 査 西田 孝洋		

論文審査の結果の要旨

1 研究目的の評価

本研究は、カルシウム拮抗薬(CCB)による胃腸障害の発生を胃酸分泌抑制薬の処方をアウトカムとして、薬剤疫学的に立証しようとしたもので、目的は十分に妥当である。

2 研究手法に関する評価

長崎県内の調剤薬局に来客した、内科から処方を受けた患者を対象に、後向きの開かれたコホート研究を行っている。調査対象を 60 歳以上の高齢者、55 歳未満の非高齢者、及び胃酸分泌薬治療中の患者に区別し、それぞれにおける交絡因子を考慮しながら、可能な限り多くのデータを使用するようにデザインして解析したもので、研究手法も妥当である。

3 解析・考察の評価

上記手法で解析した結果、高齢者に限らず、交絡因子の少ない非高齢者においても CCB を処方されている患者が、コントロールに比べ有意に胃酸分泌薬の処方を受けていること、また、胃酸分泌薬治療中の患者においても、CCB 処方群が有意により強力な胃酸分泌治療薬に処方変更になっていることがわかり、高血圧の CCB 治療を受けている患者では、長期にわたる場合、その胃腸障害に十分注意が必要であるとの結論を得ている。これは薬物治療における有益な服薬指導情報であり、高く評価できる。

以上のように本論文は臨床薬学研究に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（臨床薬学）の学位に値するものと判断した。